

豊後大野市研修ツアー

佐藤 周太

本年三月二十四日、挟間史談会は「日本ジオパーク」に選定された豊後大野市の三重町、緒方町と朝地町、三町の名所・旧跡を訪ねました。男性は佐藤末喜事務局長以下九名、女性は佐藤龍江さん、吉田洋子さん達五名、合計十四名が集まりました。残念ながら病気のため参加できない方が数名居りました。

参加者一行のバスは、由布市役所挟間支所を九時出発、国道二一〇号を植田方面に走り、途中から田尻を抜けて敷戸に出、国道十号を南下して犬飼からは中九州高規格道路に乗り、千歳からは一般道で三重町にはいりました。今回は当地出身・挟間在住の吉田さんにバスの助手席から丁寧なガイドをして頂きました。

まず訪ねたのは三重町「内山観音・蓮城寺」です。資料によれば、五五四年、中国の天台山から渡来した僧蓮城が開山、真名野長者が寺を建立したとあります。真名野長者伝説については説明は省きます。バスを降りた会員は全員で記念撮影の後、千手観音を祀る観音堂を拝観しました。本尊の千手観音は木彫の坐像ですが普段は見る事ができません。本尊は大悲闍正面現像物の後ろの厨子の中に安置されており、三十三年に一度の御開帳があるとのことですが開帳年はわかりません。

観音堂から少し離れた場所に建つ薬師堂には九九八体の薬師如来

像が安置されています。薬師如来像の安置数としては日本一です。そして境内の奥の丘上には真名野長者伝説の般若姫像（高さ二十二m）が立っています。像は延岡へ通じる国道三二六号からも良く見えます。更に、駐車場のある境内の端には黄金が湧き出したと言う金亀ヶ淵の池も残っています。当寺は高野山真言宗準別格本山となっており、また、一週間後には恒例の真名野長者祭りもあり賑わいます。

次の目的地は緒方町原尻の滝です。三重町からは国道五〇二号を一級河川・大野川とその支流に沿って走ります。道の駅「きよかわ」を過ぎた途中、鷹来屋ブランドで有名な「浜嶋酒造」に寄りました。直売店で各人が清酒や梅酒、甘酒、酒粕などを買い求めています。試飲コーナーもあり、甘露な大吟醸純米酒や甘酒で喉が潤いました。ここでは醸造タンクも見ることができます。

次の途中では、源平合戦の悲劇の英雄・緒方三郎惟栄の「居館跡地」に立ち寄りました。事前にバスの中で二宮壽さんから説明を受けていたので現地の説明でも緒方の騎馬武士団が強大な勢力を持っていたことが良くわかりました。ここ緒方の地は、平野の中央部を水量豊富な大野川・緒方川が貫いており、井路も発達していたとのこと、肥沃な農土でさぞや穀高も多かったことでしょう。

緒方惟栄の出自については諸説あるとのことですが、彼は宇佐神宮の荘園であった緒方庄の荘官であり源氏方について葦屋浦の戦いで平家軍を打ち破る功を成した武将で、最後は源頼朝に背反して源義経に荷担したために流罪となり、その後病死したとも伝えられて

います。これが「悲劇の英雄」と云われる所以です。ですが、幸いにも流刑の対象となつたのは親子兄弟のみであつたために緒方一族の大勢には影響が無くその係累にある緒方氏各家は現在まで血脈を伝えているそうです。ここから周囲を見渡すと平野の中に点在する民家も「立派な家が多いですよ」と吉田さんが教えてくれました。居館跡地に建つ緒方惟栄神社は今も鳥居と石造の祭壇が残るのみです。敷地内には戦争記念の銘がある大きな尖塔が立っています。彼方に見える祖母の山名の由来を二宮寿さんが教えてくれました。

緒方惟栄居館跡地を出て五分もすると道の駅「原尻の滝」に着きました。豊後大野市ジオパークの中核をなす原尻の滝の傍にあります。ここにあるレストラン「白滝」で昼食をとりましたがメニューの選定を吉田さんをお願いして、料理が出てくるまでの間に原尻の滝を皆で見学しました。水量が豊富な時期の瀑布は「東洋のナイアガラ」と称されるほど圧巻とのこと。今日もそれなりに美しい姿を見せてくれました。滝の周囲をぐるりと一周してもまだ時間が余つたので道路の反対側にある産直野菜店にも行きました。ネギや白菜など大分市内の半額の値段がついていました。安い。他には蜂蜜や椎茸、ウコン、花の苗等、沢山の特産品が並んでいました。

昼食は、だんご汁、漬物、野菜の酢味噌和えなどのおかずがついた定食をテラスで美味しく頂きました。食後は店内の土産物を大量に買い込んだかたも居りました。沢山の人が出で賑わうチュウリップ祭りは四月ですが、広大な田んぼに植えられた一〇〇種五十万本を超える苗は未だ固いツボミでした。

午後一番は吉田さんの薦めで「宮迫東塔と西塔」を見学しました。東塔中央には大日如来、左右に持国天と不動明王が立つ威厳のある祠です。西塔は釈迦如来が中央に、阿弥陀如来と薬師如来が左右に立っています。東西塔ともに平安末期の作とされ、豊後磨崖仏の代表作であり、繁栄と安穩を願うと言われています。保存状態も良く地元の方が大事にされているのが良く分かりました。ただ、道路脇の駐車場から現地までは距離と高低差が結構ありまして昼食のあの為か足が少々重く感じました。

豊後大野市は、ほかにも菅生や普光寺や犬飼など有名な磨崖仏が沢山あります。

次は、緒方町を後にして、研修最後の地・朝地町の「神角寺」に向かいました。神角寺は標高七三〇mと高所にあり、宮迫から神角寺までは市道から国道五十七号を南下し、更に国道四四二号に入つて北上、次に県道から市道を経由して数十分走つてやっとたどり着くと言つた所です。バスに乗っている時間がとても長く感じました。途中間違えやすい岐路もあり要注意です。一方通行の道もありました。駐車場は広かったです。

神角寺は高野山真言宗の寺院です。本堂は五七〇年に新羅の僧によつて建立されましたが、その後戦火により荒廃していたのを、一三六九年大友氏により現在の本堂を含む六坊が建てられ中興したと言われています。本堂は宝形造、椀皮葺、縦横三間の簡素な堂ですが古い禅宗様式をとどめています。本尊は観世音菩薩ですが三十三年毎の本開帳の時しか見られません。山門両脇に安置されてい

る木造金剛力士立像一対は高さ二・五メートルの寄木造の彩色で鎌倉時代前期に運慶の弟子の作とも言われています。本堂と金剛力士像は国指定の重要文化財です。

私達は境内を抜けて寺の奥にある標高七五〇メートルの展望台まで足を延ばしました。この展望台からは傾山や祖母山が、はるか遠くには阿蘇連山が一望できます。また、ここから岡藩全体を見渡せたことから中川公の時代以降は、「国見の鼻」と呼ばれるそうです。ここでも皆で記念写真を撮りました。

神角寺は皆さんご存知の通り、シャクナゲの名所で別名石楠花寺とも呼ばれ、五月の開花期には大勢の見物客で広い駐車場が満杯になるそうです。

これで今日の予定は全て終了です。生憎、豊後大野市歴史資料館は月曜休館と言う事で見れませんでした。

往きと還りの車中は賑やかでした。御母堂が挟間鬼ヶ瀬出身で別府市在住会員の矢島嗣久さんが、自身の逸話のほか、別府に纏わる話として、NHK大河ドラマで話題の黒田官兵衛の石垣原合戦話を詳しく、またもう一人の官兵衛として会津藩出身の警察官・佐川官兵衛の話、「青春の門」作家の五木寛之の改名の理由、伊藤伝衛門・白蓮、麻生太賀吉、野口病院の話、別府の湯けむりの本数四〇八本は日本一、ふくらはぎ健康法等々、興味の尽きぬ話を連射砲の如く次々と披露して頂きました。氏は別府の歴史ガイドもされている由、丸野安比古さんに差し入れ頂いた缶コーヒーを飲みながら皆さん熱心に聞き入っておりました。感謝申し上げます。

更に、二宮壽さんには緒方惟栄の解説のほかに、戦争中の熊本駅で一晩過ごした時の女性絡みの件や野良犬のねぐらを借りて怖かった話、警察官にヤミ米と間違えられた話等、御自身の体験談に基づいた臨場感豊かな話を披露していただき、皆さん楽しく？拝聴しました。重ねて御礼申し上げます。

今日は天候も良く由布市所有のバスと、ドライバー・倉原さんの安全運転で楽しい研修ができました。挟間支所には予定通り十六時に帰着・解散しました。

みなさん次のバスツアーも元気に楽しく行きましょう。



蓮城寺（内山観音）山門前にて